



# なでしこ 第2号

H22 (2010) .2.20 発行  
沖館川をきれいにする会  
事務局 781-0862

◆ 今回は水質検査 (pH・COD・DO 試薬使用のパックテスト法による数値測定) についてお知らせしましょう。

H19.9、当時の会長他2名が県主催の水循環教室に参加し「水質検査」実習を体験した結果、川は水の汚染状況をしっかり把握し、その上でクリーン作戦など浄化運動推進に反映させる必要があると考えました。以後当会事務局では沖館川2ヶ所と西滝川1ヶ所の川水を採取、これまでにH19年5回、H20年とH21年は夫々6回、H22年1回の計18回(奇数月始めに1回)の水質検査を実施し、随時EM菌投入等の浄化活動を継続して来ました。水質検査の実施結果(22年分を除く)は下表のとおりです。

川別・年別 数値	沖館川(沖館橋下)			沖館川(相野歩道橋下)			西滝川(相野)		
	19年	20年	21年	19年	20年	21年	19年	20年	21年
P H	6.90	6.71	6.60	7.04	7.00	6.36	6.60	6.33	6.63
C O D	6.10	6.50	5.33	5.80	5.91	5.50	6.10	5.66	6.00
D O	5.30	5.66	6.16	5.70	5.83	6.16	5.70	6.16	6.33

[注～pHは各年の平均標準色数値、COD・DOは各年の平均mg/l数値を示す]

● 用語の概略の意味(水質規準が示され、川水の汚れ具合などが解かります)

- ・ pHとは、水中の水素イオン濃度値で、**pH7だと中性それより大きいとアルカリ性、小さいと酸性**。水道法の水質基準は5.60以上8.60以下となっているも、河川環境基準では6.50以上8.50以下を維持するのが望ましいという。
- ・ CODとは、水中の物質が酸化されるに時に消費される**酸素量**。COD値が高いと水中酸素を消費する物質が多いことを示す。水道法の水質基準では10mg/l以下と定めている。3mg/lでは快適な水源、1mg/l位だと非常にきれいな水と言える。
- ・ DOとは、水中に溶け込んでいる**酸素量**。きれいな水ほど飽和(水温20℃で飽和値は9.17mg/l)に近い量を含む。魚介類が生活するためには3mg/l以上必要で、ゼロになると腐敗し悪臭が発生する。

● 所見

約2年半の水質検査の実施結果では、上記表のとおり沖館川・西滝川の川水の各年平均数値が、殆どpH・COD・DOの基準数値の範囲内であることを証明しています。ただ両川が上質水だとは言えませんので現在以上の数値を目指し、今後とも地域の皆様と共によりきれいな親しみやすい川づくりを進めていきたいので、どうか一層のご理解とご協力をお願いします。